

# 「四国港湾ビジョン(案)」の策定における主な論点

---

令和元年8月6日

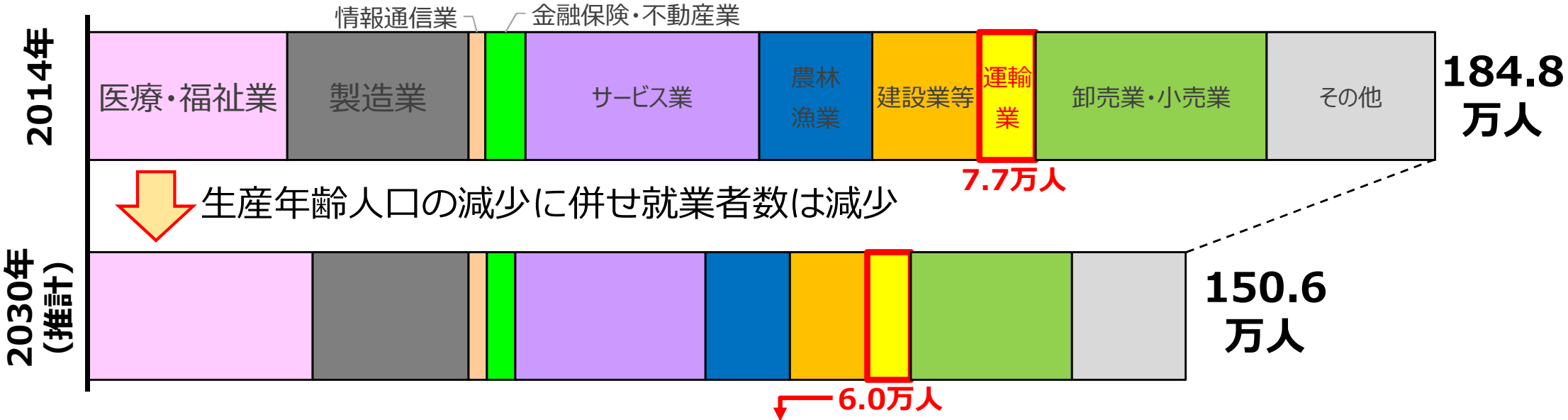
四国地方整備局 港湾空港部

1. 危惧される将来シナリオと四国の港湾が果たすべき役割
2. 四国の港湾が役割を果たす上で考慮すべき視点（「港湾の中長期政策『PORT2030』」より）
3. 「四国港湾ビジョン（案）」の策定における主な論点

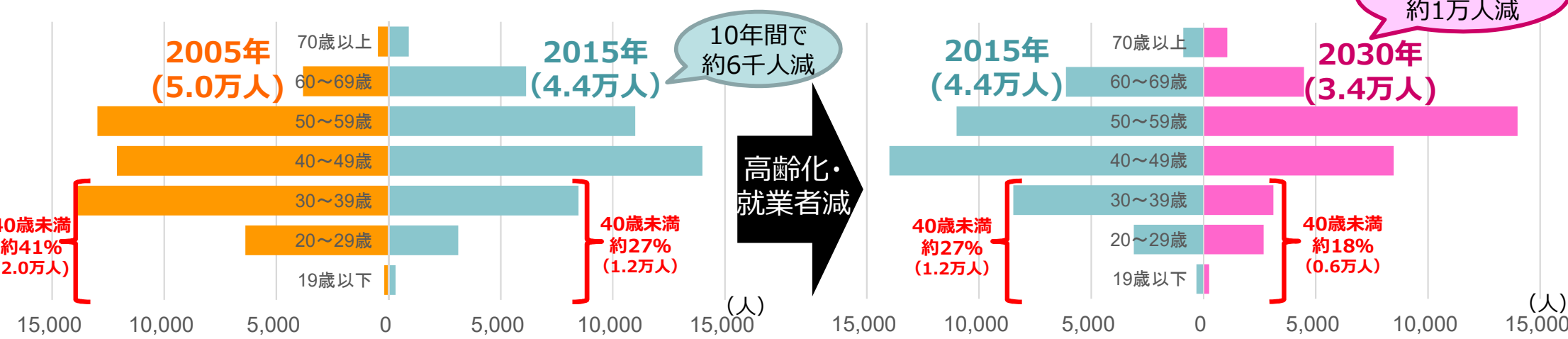
# 1. 危惧される将来シナリオと四国の 港湾が果たすべき役割

# 危惧される将来シナリオ ～就業者数減少に伴う輸送供給力の低下～

出典：JILPT「平成27年 労働力需給の推計」新たな全国推計を踏まえた都道府県別試算 参考資料



## <運輸業のうち、道路貨物運送業就業者における年齢構成比の変化イメージ>



左図：総務省「国勢調査」より四国地方整備局作成、右図：10代～20代、60代～70代（10年間の内に就職・退職が発生する）は、2015年の数値に、2015年→2030年の15歳以上総人口の変動率（国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」より算出）を乗じる。30～50代は、2015年の20～40代就業者数がそのまま推移すると仮定する。

**輸送の生産性が変わらない場合、就業者数減少に伴い輸送供給力が低下し、輸送需要に対応できない (=モノが運べない)**

# 危惧される将来シナリオ ～「人口減少」「経済規模縮小」「産業競争力低下」の悪循環

## <イメージ>

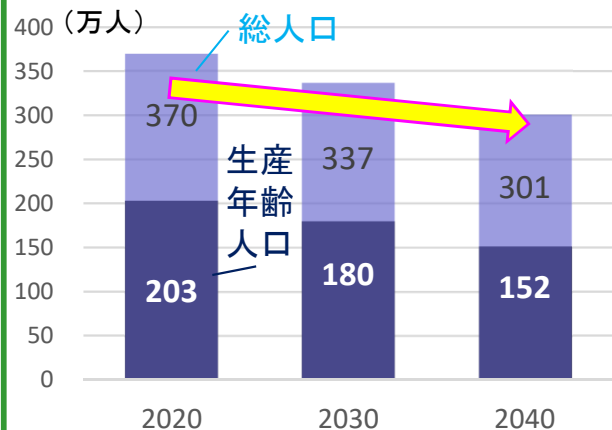
- ✓ 抜港、航路廃止
- ✓ 背後企業の撤退

海上輸送  
においては...

・産業の撤退、流出

## 人口減少

四国の人口推計



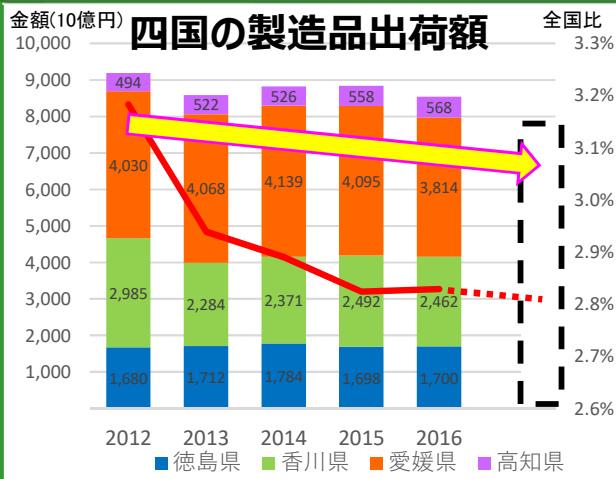
- ✓ 船社、荷役業者等の人手不足

海上輸送  
においては...

・内需の低下  
・労働力不足

どこかで歯止めを  
かけなければ  
状況は悪化

## 産業競争力低下



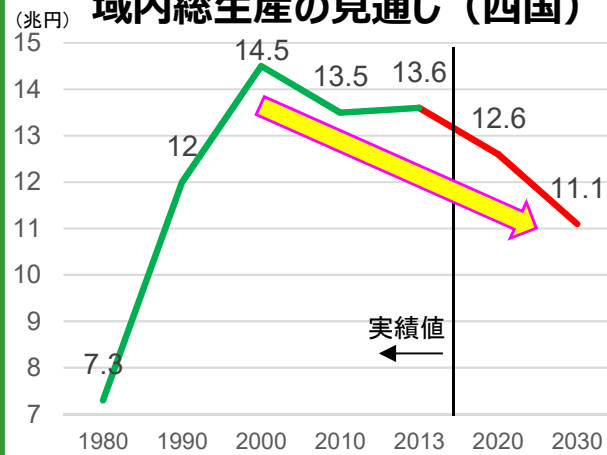
海上輸送  
においては...

・設備投資の敬遠

- ✓ 集荷の難航
- ✓ 港湾整備の遅れ

## 経済規模縮小

域内総生産の見通し (四国)



# 危惧される将来シナリオ ～設備投資の敬遠による産業の衰退～

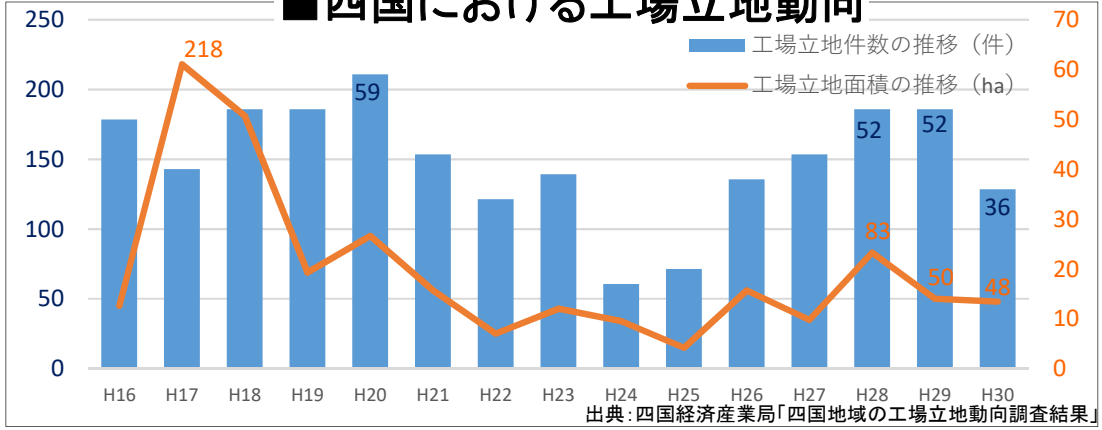
## ■四国における設備投資額動向

出典：(株)日本政策投資銀行「四国地域設備投資計画調査」

地域	分類	2017実績	2018計画	対前年度比
全国	全産業	181,299億円	218,137億円	20.3%
四国	全産業	2,589億円	3,291億円	27.1%
	製造業	1,756億円	2,316億円	31.9%
	非製造業	833億円	976億円	17.1%

「2018計画」の四国における全産業の投資額は、全国比1.5%程度

## ■四国における工場立地動向

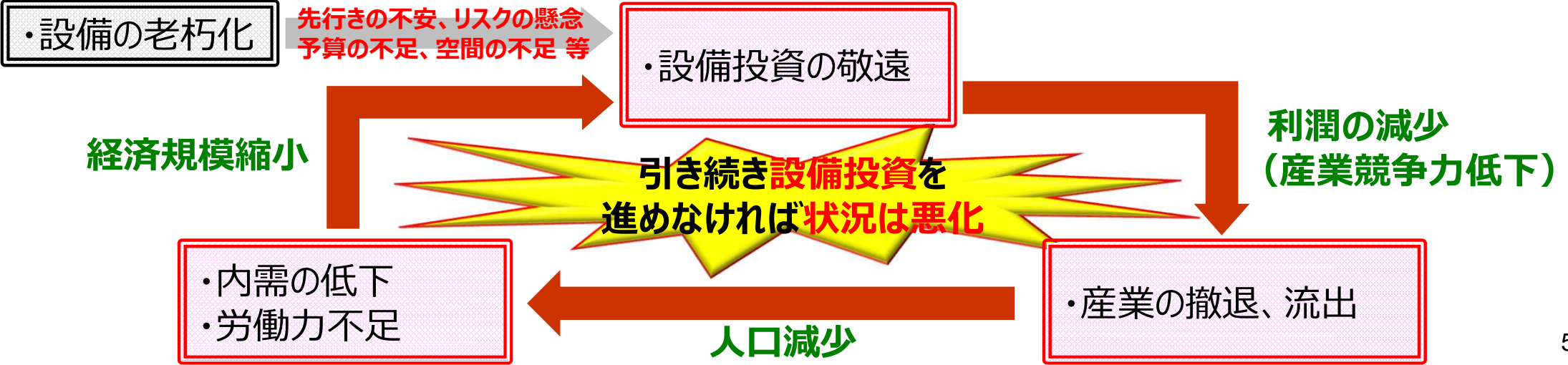


## ■設備投資を予定していない理由(上位10項目)

出典：(株)帝国データバンク「四国地区 2018年度の設備投資に関する企業の意識調査」※複数回答可

1	現状で設備は適正水準である	43.4%
2	先行きが見通せない	36.1%
3	投資に見合う収益を確保できない	19.3%
4	自社に合う設備が見つからない	13.3%
4	すでに投資を実施した	13.3%
6	レンタルや外注を活用する(シェアリングサービスを含む)	10.8%
7	市場の需要がない	9.6%
8	手持ち現金が少ない	7.2%
9	投資のための借入見通しが立たない	6.0%
10	借り入れ負担が大きい	4.8%
10	設備入れ替えにともなうリスクが大きい(生産の一時停止など)	4.8%

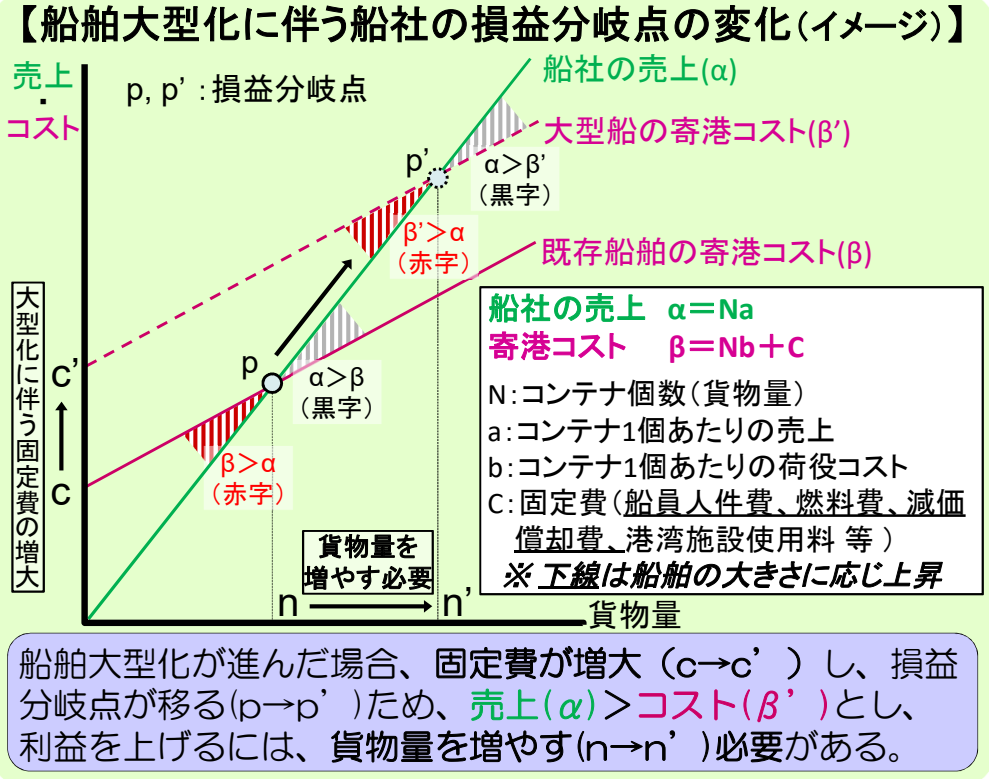
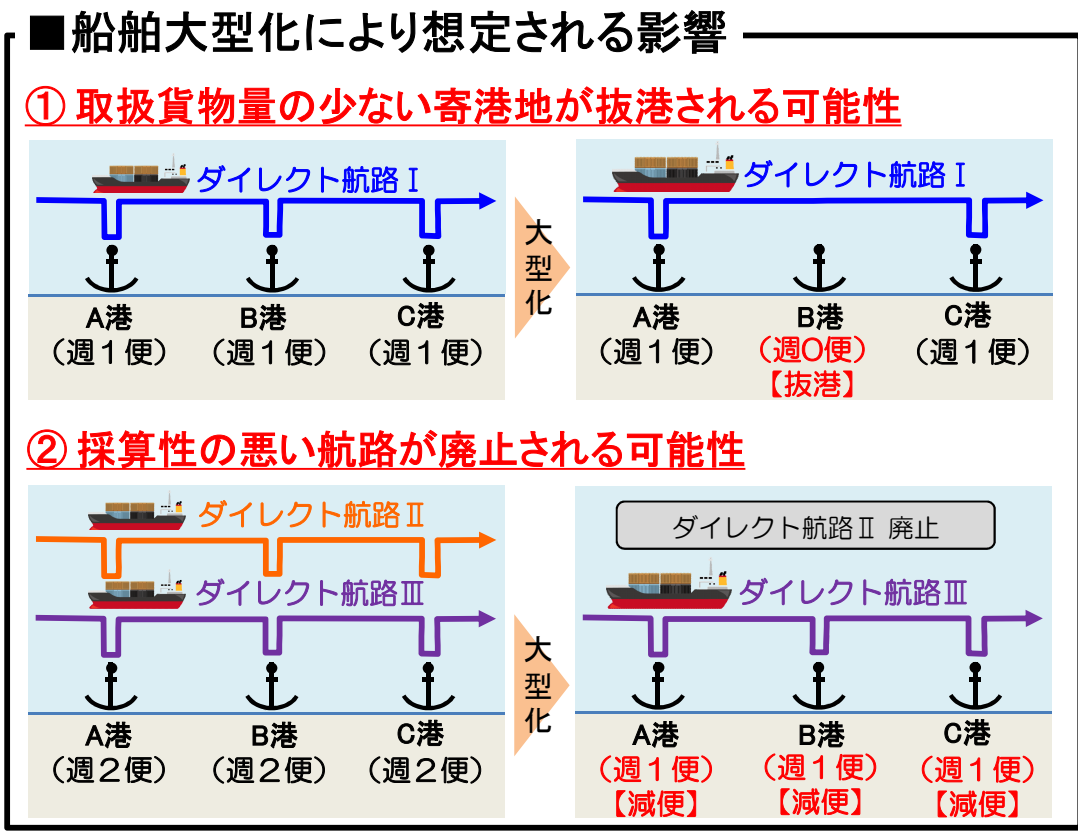
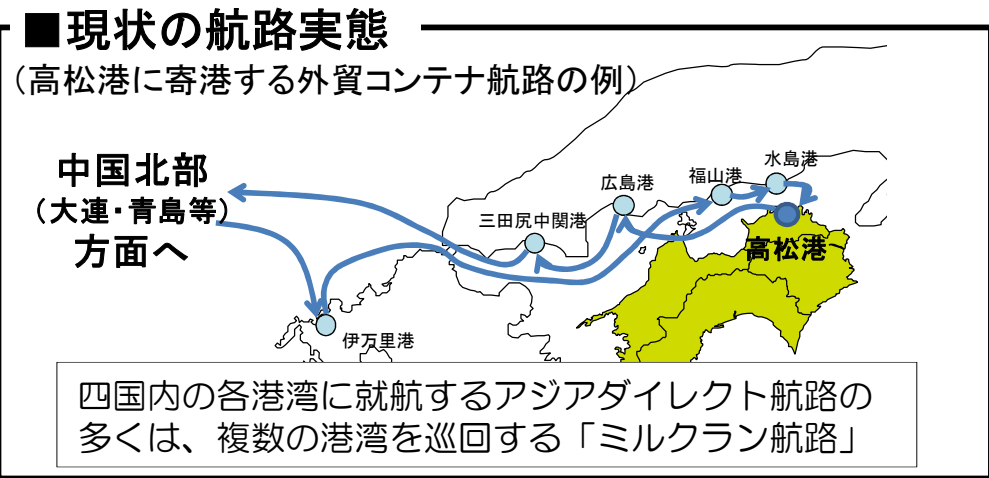
設備の老朽化の進展等に対して、必要な設備投資を行わないと・・・





# 危惧される将来シナリオ ～ 抜港・航路廃止による輸送コスト増加と雇用・人口減少～

○船舶の大型化が進んだ場合、寄港にかかるコストの増大に伴い、1寄港あたりの必要貨物量が増大。貨物量が少ない寄港地の抜港や、採算性の悪い航路が廃止される恐れがある。

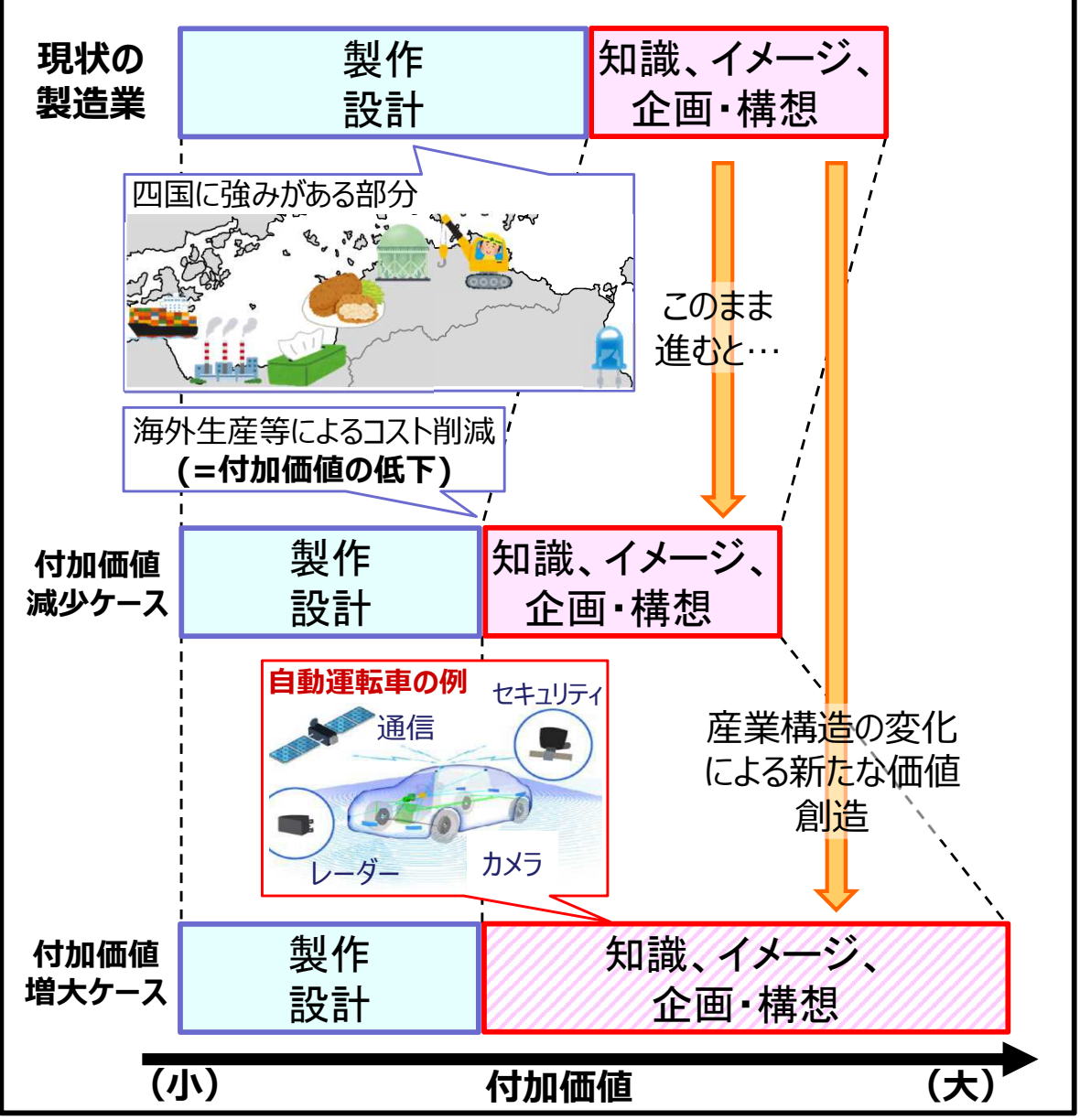


- ✓ 四国外港湾までの陸送距離増大により輸送コストが増加し、競争力が低下
- ✓ 港湾周辺への設備投資の敬遠、産業の撤退による雇用・人口の減少
- ✓ これらにより貨物量が減少し、さらなる悪循環を招く

# 危惧される将来シナリオ ～環境・条件の不足による産業付加価値の減少～

○四国の強みである「製作・設計」等の要素は、コスト削減により付加価値が減少していく。今後は、「知識、イメージ、企画・構想」等の要素を高める産業構造の変化による新たな価値創造が必要。

## ■産業における付加価値の変化イメージ（製造業の例）



新たな価値創造を図るには、産業構造の変化を促す環境・条件（人材、空間等）を整える必要

しかし...

【四国における環境・条件の現状】

- ・ 若年層の流出
- ・ 研究開発・IT投資の低さ
- ・ 企業設備、インフラの老朽化
- ・ 空間の不足 等

✓ 環境・条件を整えて産業構造の変化を促し、新たな価値創造を進めていかなければ、国内外から四国の産業が取り残される



# 四国の港湾における現状整理

分類		現状
社会・経済情勢	強み (Strength)	世界・日本トップクラスのシェアを誇る企業
	弱み (Weakness)	総人口・生産年齢人口の減少、生産性の低下や産業衰退の恐れ、産業構造の変化を促す環境の不足
	機会 (Opportunity)	「Society 5.0」の到来、交通ネットワークの整備（空港・道路・鉄道）
	脅威 (Threat)	地域間競争の激化（域内総生産等）、若年層の流出、研究開発・IT投資の少なさ、SDGsへの対応
海上物流	強み (Strength)	臨海部における産業集積、中長距離フェリーのリプレイス、コンテナ貨物量の増加、船舶大型化、国際フィーダー航路、開発保全航路の整備・保全
	弱み (Weakness)	内航船員の人手不足、フェリー・RORO航路・輸送量の減少、船舶の老齢化、地元港からの輸出が少ない農林水産物
	機会 (Opportunity)	トラックドライバーの不足、モーダルシフトの進展
	脅威 (Threat)	抜航・航路廃止の恐れ、SOxの排出規制への対応
観光・賑わい	強み (Strength)	豊かな観光資源、クルーズ船寄港数の増加、多様なクルーズ船の寄港（大型外港クルーズ船、小型高級クルーズ船等）、みなとオアシスの増加、既存ストックの活用（釣り等）、瀬戸内地域での連携体制
	弱み (Weakness)	クルーズ船による外国人旅客数の減少、訪日客における国籍の偏り（アジア圏が多い）
	機会 (Opportunity)	インバウンド（宿泊者数、消費額）の増加、メガヨットの受入・新しいみなとまちづくりに向けた動き
	脅威 (Threat)	地域間競争の激化（訪日外国人宿泊者数、クルーズ船寄港）
安全・安心	強み (Strength)	ハード・ソフト両面における防災対策の進展、海洋環境への配慮（海洋環境整備事業、藻場造成実験）
	弱み (Weakness)	港湾施設の老朽化進展
	機会 (Opportunity)	全国・四国全体での防災体制の進化
	脅威 (Threat)	自然災害リスク、環境保全への対応（プラスチックごみ、洋上風力発電）

# 四国の港湾が果たすべき役割

## 危惧される将来シナリオ

- 就業者数減少に伴う輸送供給力の低下
- 「人口減少」「経済規模縮小」「産業競争力低下」の悪循環
- 設備投資の敬遠による産業の衰退
- 抜港・航路廃止による輸送コスト増加と雇用・人口減少
- 環境・条件の不足による産業付加価値の減少

## 四国の港湾における現状

- 四国港湾の強み**  
(臨海部における産業集積等)
- 四国港湾の弱み**  
(生産年齢人口の減少等)
- 四国港湾の機会**  
(「Society 5.0」の到来等)
- 四国港湾の脅威**  
(地域間競争の激化等)

「危惧される将来シナリオ」を回避するためには  
四国の**社会・経済を強靱化**する必要

四国の港湾における現状を踏まえ、四国の社会・経済を強靱化するために港湾が果たすべき役割とは・・・

## 四国の港湾が果たすべき役割

- ・港湾物流の高度化による生産性の向上
- ・港湾空間の活用による付加価値力の創出

四国港湾の役割を果たし、四国の社会・経済を強靱化するために「あるべき将来像」を描く  
(=「**四国港湾ビジョン(案)**」)

## 2. 四国の港湾が役割を果たす上で考慮すべき視点 (「港湾の中長期政策『PORT2030』」より)

# 次世代高規格ユニットロードターミナル

○内航フェリー／RORO船によるシームレス輸送の効率性向上のため、**情報通信技術を活用して料金決済やシャーシ管理等を効率化するとともに、ターミナル内において自動化技術等を実装した「次世代高規格ユニットロードターミナル」**を実現する。

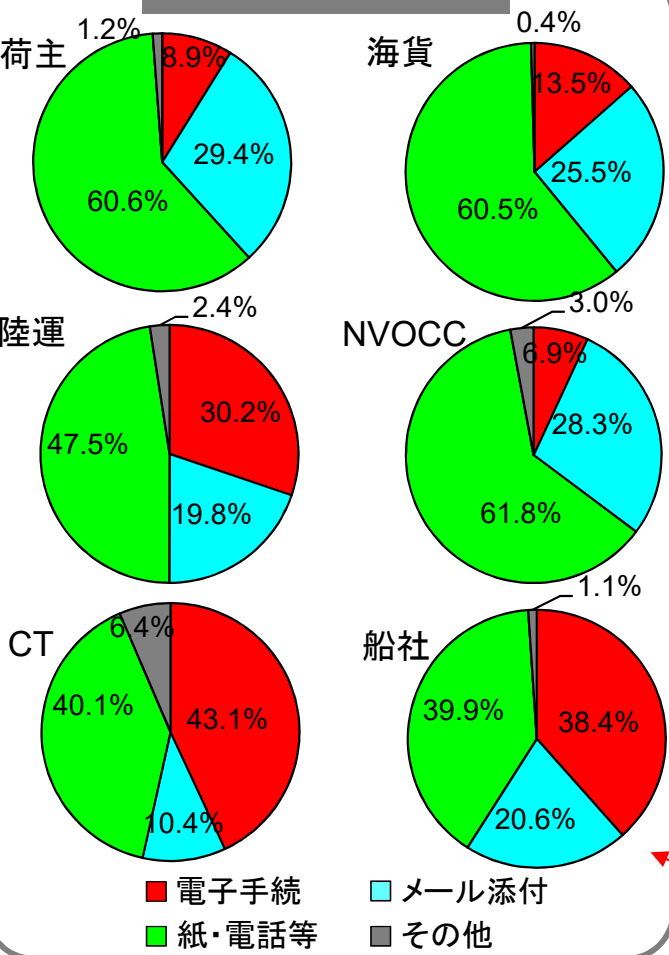


○情報通信技術や自動化技術を効果的に活用することにより、**物流コストの低減やリードタイムの短縮**を図るとともに、モーダルシフトを促進することにより、ドライバー不足等の**国内物流に対する陸上輸送の逼迫感を軽減**

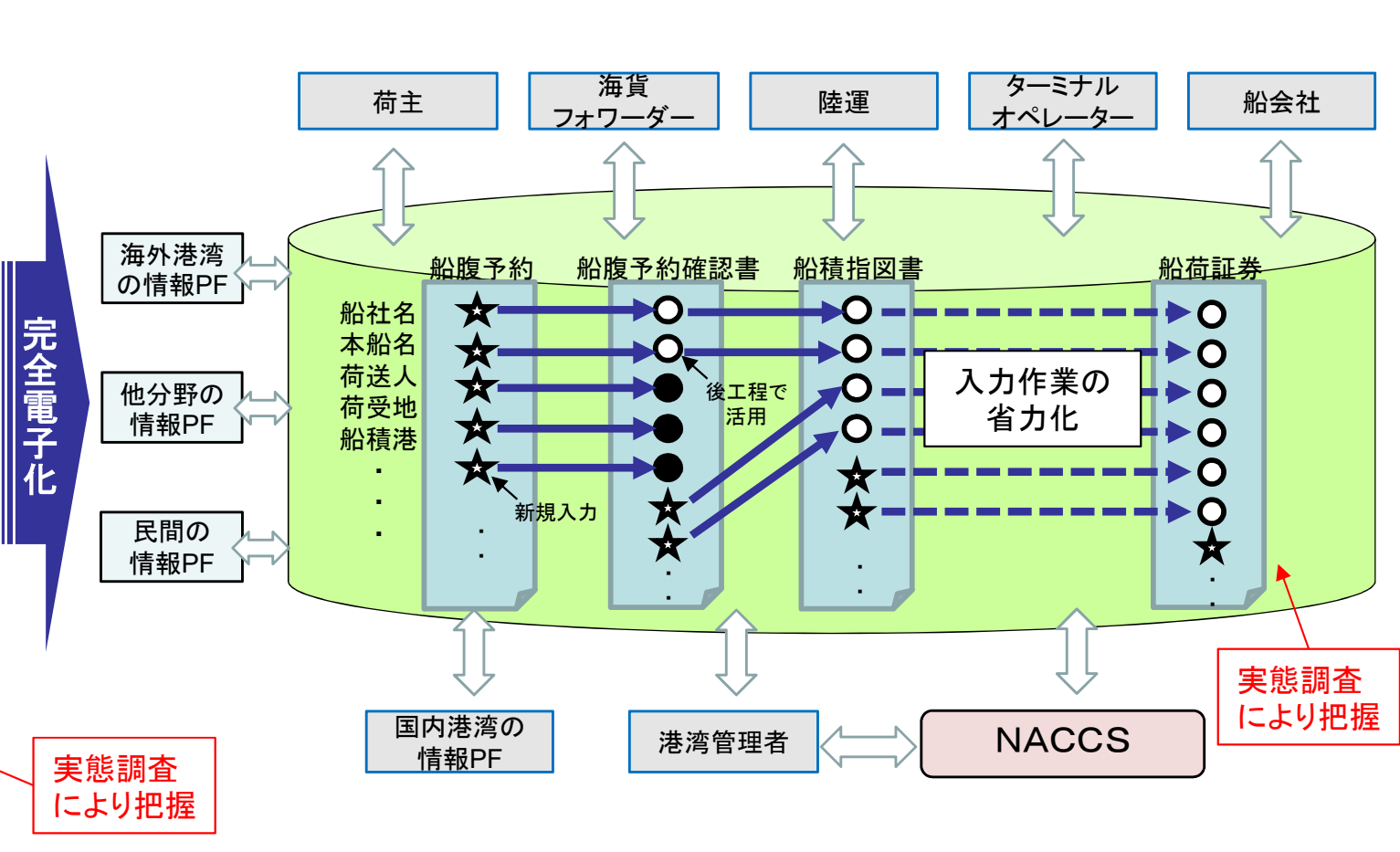
# Cyber Port 社会の実現

○ **港湾データ連携基盤の構築**により、全ての港湾情報や貿易手続を電子的に取り扱うことを標準とする環境「**港湾の完全電子化**」を形成した上で、さらに、今後実現を想定する海外港湾や、農林水産業等の**異業種の情報プラットフォーム**とも接続し、連携する情報の拡大を図り、情報の利活用による**利便性・生産性を最大限まで高める「Cyber Port」**を実現する。

## 情報伝達の現状



## 港湾関連データ連携基盤の基本構造

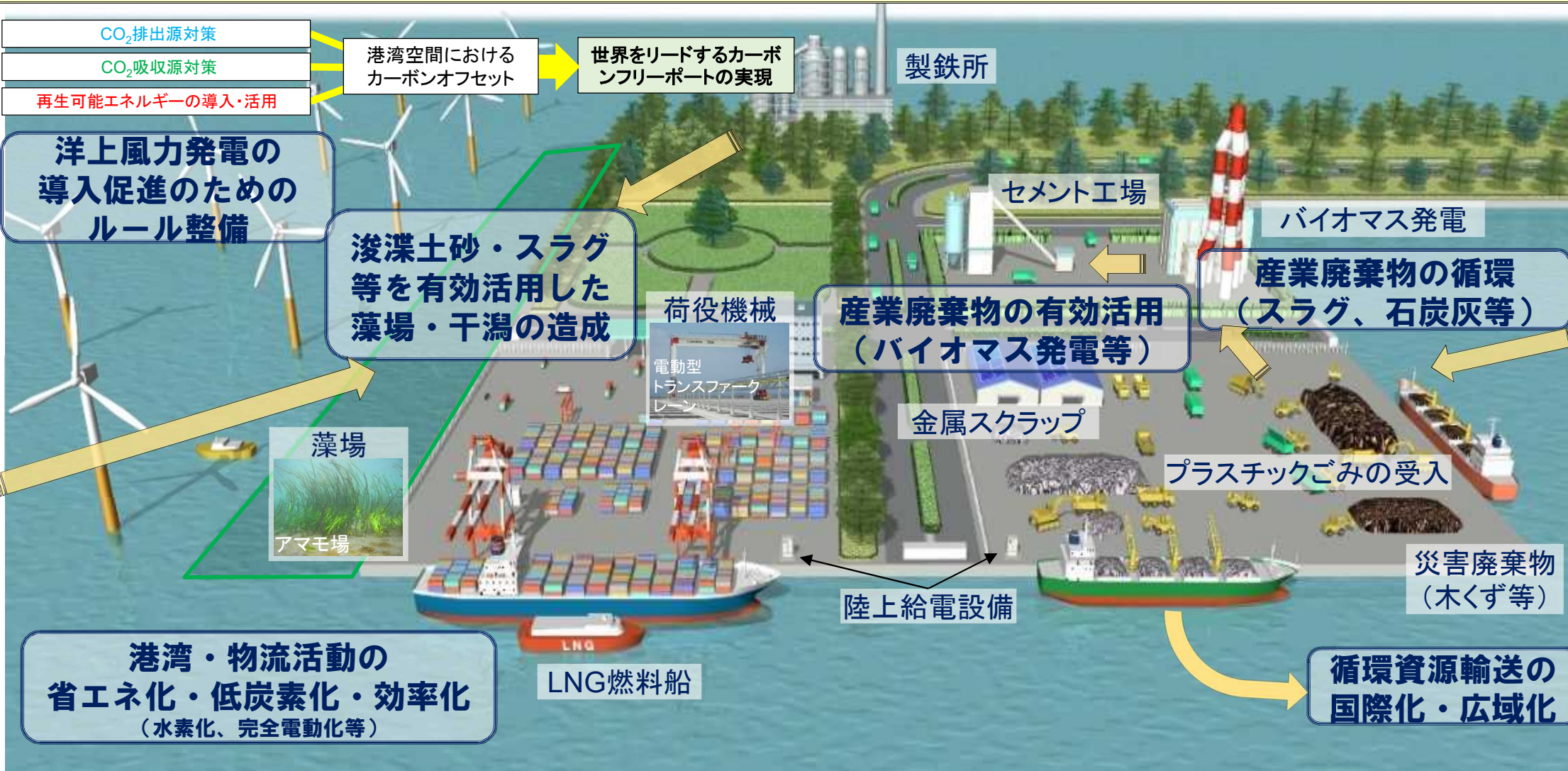


○ Cyber Portにより、国際貿易、観光振興、港湾施設利活用、臨海部防災その他**多様な分野で、港湾情報を核とした新たな情報活用ビジネス・サービスを創出**。



# 「カーボンフリーポート」の実現

○SDGsやパリ協定の締結等を踏まえ、**プラスチックごみ対策**、**洋上風力発電の推進**、LNG燃料船の導入、荷役機械、輸送機械等の低炭素化や陸上給電設備の導入等のCO<sub>2</sub>排出源対策に取り組む。



- 港湾空間を先進的な環境対策の場として活用することにより、**世界をリードする環境対策を推進し温暖化防止に寄与**
- 循環資源の効率輸送などにより、**関連する産業の競争力向上と環境負荷の抑制を両立**



# 空間再編等による賑わい拠点の形成

○物流機能の沖合展開に伴い、内港地区のマリーナやみなとオアシス、未利用地等を活用し、規制緩和等を進めることにより水域利用と一体となった臨海部空間の再開発を始め民間資金を活用した新たなビジネスを生む。また、訪日外国人旅行者だけでなく市民も交流を深めることのできる、賑わいや潤いのあるウォーターフロント空間を提供する。



- 港湾機能の再配置により、**物流や賑わいなど港湾空間の価値を総合的に高め**、訪れたいくなる「みなとまち」形成を図る
- 観光客が求める「**本物**」の観光資源を快適な環境とともに提供することで、**訪日外国人旅行者の満足度向上、地域への経済効果の最大化**を図る
- 「みなとまち」のブランド化を図り、民間資金の活用を促すことにより、**臨港部への新たな投資需要を喚起**する



# 列島のクルーズアイランド化

○クルーズ旅客の利便性向上のため、空港・駅・ホテルでのクルーズチェックインカウンターを設置や、観光地予約システムの充実、鉄道・航空等他モードとのシームレスな接続により多様なアクセスを確保に向け取り組む。また、我が国発着クルーズの増大を図るため、我が国でのシートレードの開催や、島嶼部等も含めた広域周遊ルート形成を促進する。



○カリブ海や地中海等のクルーズ需要に匹敵する「北東アジアのクルーズハブ」の形成を我が国において目指す  
○国内各地の**魅力ある地域観光資源と融合**したクルーズビジネスの育成により、**海の国際交流拠点**を形成する。

### 3. 「四国港湾ビジョン(案)」の 策定における主な論点

# 「四国港湾ビジョン(案)」の策定における主な論点

## 四国の港湾における現状

**四国港湾の強み**  
(臨海部における産業集積等)

**四国港湾の弱み**  
(生産年齢人口の減少等)

**四国港湾の機会**  
(「Society 5.0」の到来等)

**四国港湾の脅威**  
(地域間競争の激化等)

## 四国の港湾が果たすべき役割

- ・港湾物流の高度化による生産性の向上
- ・港湾空間の活用による付加価値力の創出

## 主な論点となり得る事項 (案)

### 将来像 (案)

- **人口減少下において、輸送の効率化に向けて港湾に求められる役割は何か**  
 (関連する具体の施策 (例) : 「Society 5.0」による物流生産性の向上  
 内航ユニットロード輸送の高規格化 等 )
- **産業構造の変化に向けて、臨海部に求められる機能は何か**  
 (関連する具体の施策 (例) : 港湾における新たなニーズへの対応 (洋上風力発電、プラスチックごみの受入)  
 背後の産業と連携した集貨・創貨 (農林水産物輸出等) 等 )
- **人々のライフスタイルや価値観の変容に伴い、ウォーターフロントはどうあるべきか**  
 (関連する具体の施策 (例) : 新たなみなとまちづくりに向けた空間形成  
 クルーズ船寄港、メガヨット受入の拡大 等 )